

2019年度学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番 12	福山市立 培遠中 学校
最終更新日		2019年4月8日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き小中9年間で子どもたちを育てる取組を継続して欲しい。 学校が抱える課題も地域と共有し、今後も地域と協力し、地域の行事等に積極的に参加していただきたい。地域とかわりをさらに深め、地域交流会等の取組を継続して実施してください。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種調査の結果は高まってきたが、基礎基本に比べ、活用に課題がある。また、30%未満の生徒の割合も高い。 奉仕的活動や地域の行事への参加率が高まり、自己効力感も高まっているが、長期欠席の生徒が少なくない。 学習面・生活面ともに、決められたことをやろうとする生徒が増えたが、自分事として捉え、主体的に取り組む生徒は少ない。 	<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見・解決力、論理的思考力、コミュニケーション力、実践力(高い奉仕の精神)</p> <p>たくましく生きる力を身に付け、自らの進路をきり拓き、地域に貢献できる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> 「かく」活動や対話を通じた言葉の力の育成 ICT機器を有効に活用した子ども主体の授業づくり あいさつ運動の実施 地域貢献活動の実施
---	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>知・徳・体の調和がとれ、自らの学校に誇りを持てる生徒を育てるとともに、地域・保護者との繋がりを深め、地域に愛され、信頼される学校教育の創造を目指す。</p>	<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>○課題発見・解決力 ○論理的思考力</p> <p>○コミュニケーション力 ○実践力(高い奉仕の精神)</p> <p>○培遠精神&たんぼぼ魂【課題発見・解決力、論理的思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夢を持ち、自ら課題を見付け、その解決に向けて自ら考え、何事にも挑戦しようとするたくましい生徒 <p>○生活五訓(挨拶・時間・美化・服装・姿勢)【実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当たり前をひたむきに取組む生徒 <p>○地域貢献【課題発見・解決力、実践力(高い奉仕の精神)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域を愛し、感謝の気持ちを忘れず、ボランティア活動や地域行事に積極的に参加する生徒 <p>○和衷協同【コミュニケーション力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間を大切に、協働し共に伸びようとする生徒
<p>学校教育目標</p> <p>夢を志にチャレンジ ～たくましく生きる力を身に付け、自らの進路をきり拓き、地域に貢献できる生徒を育てる～</p>	<p>研究</p> <p>教科等</p> <p>主題・内容等</p>	<p>総合的な学習の時間</p> <p>小中9年間を見通した主体的・対話的で深い学びを目指した授業の創造 ～子どもの問いを中心にした学びを目指して～</p>
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 学力調査等において、県平均を上回るなどの成果は見られるが、通過率30%未満の生徒の割合が高い。 長期欠席生徒の人数が多い。 小中連携や地域ボランティアへの参加によって地域からの評価が高まるとともに地域が好きと答える生徒が増加傾向にある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間を軸に、教科横断的な視点を取り入れた単元計画を立て、「育成する力」を意識した授業づくりを進めている。 基礎学力を定着させ、言葉の力を育てていくために、全教科で「かく」活動を取り入れた授業に取組んでいる。 主体的で対話的な学習を進めるために、ICT機器の活用やグループ学習を授業に位置づけ、学習意欲や思考力・表現力の向上に努めている。 	<p>めざす授業の姿</p>	<p>○「自ら考え学ぶ」授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを明確にし、生徒が自ら問いを立てたくなるような課題を設定する。 「かく活動」により、子どもが自分の「問い」や「ふり返し」を自分の言葉で表現し、主体的・対話的で深い学びを目指した授業を行う。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策
3	全国学力学習状況調査等の調査問題において、通過率を全ての教科で国、県平均以上にする。	★	継続	授業で考えることが面白いと回答する生徒の割合を80%以上にする。	▽子どもが「自ら考え学ぶ」授業で学びに向かう力を育成する。 ▽学力調査や分析ツール、データベースを活用し、生徒個々の学習状況に柔軟に対応した学習環境を整える。 ▽各種検定の準会場実施を行い、資格取得に向けた取組を行う。	△授業で「生徒の問いを中心にした課題発見・解決の場」や「かく活動」を取り入れていると答える割合を90%以上にする。 △各種試験において、30%未満の生徒の割合を10%未満にする。 △1年日本語検定、2年文章検定を全員受験し、取得率をそれぞれ70%以上にする。							
2	長期欠席生徒率を全国平均以下にする。		継続	新たな不登校生徒・30日以上欠席生徒を前年度より50%以上減少させる。	▽アンケートを元にした面談週間を毎学期設定し、早期発見、早期対応を図る。 ▽班長会等を活用したリーダー育成と学級集団作りに努める。 ▽あいさつや掃除、ボランティア活動等、生徒の頑張りを認め、表彰する場をつくる。	△アンケートで「自分には良いところがある」と答える生徒の割合を70%以上にする。 △アンケートで「本音で相談できる人がいる」と答える生徒の割合を85%以上にする。 △学校が楽しいと回答する生徒を90%以上にする。							
3	新体力テストで県平均を上回る項目数を50以上とする。		継続	新体力テストの県平均を上回る項目を50%以上にする。	▽体育の授業の補強運動で、計画的に弱点補強を徹底する。 ▽縦割り集団を活用し、体育的行事を体づくりに活用する。 ▽保体委員会を中心とした、生活習慣の指導や食育の場面を設定する。	△全学年、50m走、シャトルラン、ハンドボール投げを県平均以上にする。 △体育的行事における体づくりの取組への生徒の参加率を80%以上にする。 △朝食を食べてくる生徒を90%以上にする。							
5	地域・保護者の学校教育に対する満足度を90%以上にする。		継続	学校関係者評価会議での評価項目についてすべて◎評価にする。	▽培遠通信を月1回以上発信する。 ▽HPの定期的な更新を図る。 ▽地域の行事やボランティアへ参加させる。 ▽教職員の働き方改革を進める。	△「子どもは学校生活に満足している」と回答する保護者の割合を90%以上にする。 △月1回以上の培遠通信の発行とHPの更新。 △地域行事やボランティアに参加していると回答する生徒の割合を85%以上にする。 △「授業づくりを行う時間が確保されている」と感じる教員の割合を80%以上にする。							